

# 岩座神（いさりがみ）棚田の石積みワークショップ

～石を積みながら土地を知る～

## 開催日

12月3日（日） 10:00～16:00（予定）

## 内容

石積みの保全に取り組む「石積み学校」の金子氏にお越しいただき石積みのワークショップを通じて、その価値や技術を学びます。

## 経緯

棚田オーナー制度をきっかけにはじめて岩座神に訪れた時、美しい石積みの神秘的な景色と澄んだ空気がとても印象的でした。数年たち、家族で田畑をしながら仕事をする暮らしを考えた時、この場所と再び出会い、家と仕事場をつくることに決めました。現在建設中の敷地には元々、石垣が埋まっていました。大きな石がごろごろと。なんとかそれを活かそうと、石垣を復活させ建築の一部に取り込むアイデアが生まれました。そうすることで、そこに住む私たちが自ら石積みの価値を知り、石積みの技術を次の世代に繋げ、この土地の英知の結集である棚田の美しさを多くの人と共有したいと思いました。村の人たちとも一緒に行くことで、その土地を深く知ることにつながると思っています。

参加費 :無料（簡単な炊き出しを予定）

イベントのタイムスケジュール :

10:00 集合、石積み学校さんからお話、説明。 / 12:00～13:30 休憩 / 16:00 終了

主催 STUDIO MOMEN 村田裕樹

建築 OKK/大西貴之建築計画事務所

後援 岩座神棚田保全推進協議会



# 「石積み学校」とは

石積み学校は空石積みの技術を継承するために様々な活動を行なっています

- ・石積み直ししながら技術を伝える -修復ワークショップの開催など-
- ・空石積みの価値を伝える -トークイベントなど-
- ・企業、地域と取り組む -社員研修、自治体支援など-

農地の石積み技術を継承するために、2013年に設立されました。コンクリートを用いない空石積みの技術を有する人が少なくなり、石積みの風景を継承することが困難になってきていたためです。そのために、崩れかけた石積みを実際に修復しながら積み方を学ぶワークショップを開催したり、石積みの価値と技術を伝えるための講演会や授業を受け持ったり、おせっかいとご縁に導かれながら様々な活動を行なっています。



## 空石積みの価値

中山間地の棚田や段畑の石積みは、モルタルやコンクリートを使わない空石積みという技術によってつくられています。空石積みは環境負荷が低い工法として再評価されてきています。基本的に地元で採れた石を使い、崩れた石を再利用できるためです。また、合理的で災害に対してもしなやかに対応できる技術でもあります。

中山間地にある石積みは規模が小さいため、人の手でこまめに修復することで大きな労力と資金をかけずに維持することができます。そして自分たちで積むという行為が文化の継承に寄与するとともに土地に対する責任や理解を高めます。さらに崩壊する際には一気に崩れることがなく、その兆候が分かりやすいという特徴があります。

EUでは農業の環境配慮要件に空石積みが位置付けられたり、空石積みの技術がユネスコの無形文化遺産に指定されるなど空石積みの重要性や保全の意志が制度にも位置付けられ始めています。中山間地域の棚田や段畑を支える空石積みは地域の活力の源となる地域らしい風景を保全するための重要な構造物です。

# 一般社団法人 石積み学校

理事 金子玲大 (Reo Kaneko)

1988 京都市生まれ

2010 大学の授業で石積みの集落を知り、石積みを習い始める。



## 主な出来事

2021.10, 玄海町と棚田の保全に関する協定を締結

2020.8, 石積み学校を一般社団法人とする

2020.5, 「図解誰でもできる石積み入門」が土木学会出版文化賞受賞

2018.12, 「図解誰でもできる石積み入門」を出版 (2019年5月に3刷)

2017.2, 「棚田、段畑の石積み」の発行部数が5千部を超える

2016.6, 金子玲大が石積み学校のメンバーになる

2014.2, 石積みの積み方を記した冊子の「棚田、段畑の石積み」第一版を発行

2013.3, 真田純子 (当時徳島大学助教) が石積み学校を設立

2009.8, 大学生向けの石積み合宿を徳島県吉野川市美郷高開で開催

# 岩座神（いさりがみ）

兵庫県のちょうど真ん中あたり、北播磨の山奥に存在する 16 世帯の小さな集落です。

鎌倉時代に開かれたとされており、「日本の棚田百選」に選定されています

岩座神の棚田の特徴は、鎌倉時代に築かれた石垣です。この石垣により、棚田の面積が比較的広く、斜面に連なる石積みと相まって独特の景観を形作っています。

（岩座神ネット より）

高齢化も進み、一口で言えば、いわゆる限界集落（存続が危ぶまれる集落）です。

けれども、私たち岩座神の住民は、先人が守り伝えてくれた棚田を貴重な遺産であると認識し、この自然と調和した生活環境を誇りに思っています。そして、これを大切に守って次の世代に引き渡すことが 私たちの責務であると考えて、行政・大学・ボランティア・都市部住民組織・NPO・企業などからの支援や協力を積極的に受け入れながら、

自分たちの知恵と労力を一所懸命に振り絞って、自律的な村作りの活動を展開してきました。1997 年に始めた棚田オーナー制度は 2019(H31/R1)年度(第 23 期)を最後に休止しました。

しかし、棚田を守る取り組みはたった今も継続して進行中です。私たちは岩座神を「抵抗集落」と呼んでいます。

